

読売新聞
朝刊連載

コボちゃん

2021年
1月7日に

一般全国紙最多 1万3750回達成

読売新聞朝刊社会面に連載中の植田まさしさんの四コマ漫画「コボちゃん」が、2021年1月7日の掲載で通算1万3750回となり、一般全国紙の連載漫画としては最多記録を達成しました。

1982年4月1日にスタートした「コボちゃん」は、好奇心旺盛な男の子とその家族の日常をほのぼのとしたタッチで描き、幅広い世代の人気を集めてきました。

読売新聞では、最多記録の達成にあわせ、特集記事を掲載したり、プレゼント企画を実施したりして、偉業をお祝いします。

これまでの最多記録は、毎日新聞朝刊で1974～2014年まで連載された東海林さだおさんの「アサッテ君」の1万3749回でした。

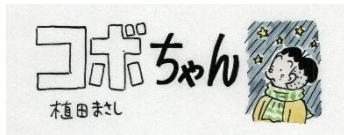
一般全国紙の長期連載としては他に、毎日新聞夕刊(一部地域は朝刊掲載)の「まっぴら君」(1954～2001年、加藤芳郎さん作)の1万3615回、読売新聞夕刊の「サンワリ君」(1966～2004年、鈴木義司さん作)の1万1240回などがあります。

一般紙以外の全国紙では、朝日小学生新聞の「ジャンケンポン」(1969年～、泉昭二さん作)が1万6000回を超えて連載されています。

■1982年4月1日の第1回



©植田まさし／読売新聞社



とは？

題名は、関西で男の末っ子をコボンと呼び、植田さんが四国の親類からそれを縮めた「コボちゃん」と呼ばれていたことに由来します。本名は「田畑小穂」で、東京の私鉄沿線駅近くに3世代で暮らしています。

“永遠の5歳児”から小学3年生へと成長し、連載1万回に到達した2010年6月14日には、妹のミホ(実穂)が誕生しました。

単行本は107巻(蒼鷹社版 60巻、芳文社版 47巻)刊行され、テレビアニメ化もされました。2022年には40周年を迎えます。

■植田まさしさんのコメント

今日の締め切りまでに昨日より「よいもの」を。先のことは考えず、そうやって来る日も来る日も同じ作業をしてきました。年を重ね、夜になると目がショボショボして困りますが、面白い作品が出来れば苦労も吹き飛びます。

コロナ禍で、田畑家の面々もマスク姿が多くなりました。社会のニュースを題材にする時、迷うこともあります。が、目に触れやすい新聞の四コマ漫画で人を傷つけることがないように――。それが僕の信条です。これからも、一つ一つコツコツと描き続けていきます。



■植田まさし(うえだ・まさし)

1947年5月、東京生まれ。71年にプロの漫画家となる。サラリーマンが主人公の「フリテンくん」(竹書房)、「かりあげクン」(双葉社)が大ヒット。現在は、本紙のほか週刊誌など4誌の連載を抱え、年間約1100本、1日平均で約3本の作品を描く。

息抜きは、健康維持も兼ねて午後11時半頃から1時間ほど出かける散歩と、家族の夕食作り。午前10時半の起床から午前3時半の就寝まで、毎日約10時間仕事を続ける生活を40年余り続ける。